

単元の指導計画を作成する手順

～中学校 総合的な学習の時間 第2学年

「人はなぜ働くのだろう？ 仕事を通して自己の生き方を考える」を例にして～

【A中学校における総合的な学習の時間における内容のまとめり（例）】

1. 単元の目標を作成する

各学校は、学習指導要領が定める目標を踏まえ、総合的な学習の時間の目標及び内容を定めることとされ、各学校の全体計画に明記されています。この「内容のまとめり」を踏まえて、教師が意図やねらいをもって作成するのが単元計画です。



内容のまとめり			
探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
働くことの意味や願い	① 地域には、地域の活性化や問題の解消を目指した取り組みやそれを支える人々、組織があることを理解する。 ② 収集した情報を視点や方法を定めて分類し、分かりやすい方法で表すことができる。 ③ 働くことの意味を考える学習が今後の自分自身の生き方に深く関わっていることを理解することができる。	① 自分たちを取り巻く社会に広く目を向けて、活動の意図や目的を明確にし、課題を見出し解決の方法を見通しをもつことができる。 ② 他者の意見や課題解決の方向性から、必要な情報を選択することができる。 ③ 事象や考えを比較したり因果関係を推論したりして考え、視点を定めて多様な情報を分析することができる。 ④ 調べたり考えたりしたことをまとめ、相手や目的、意図に応じて論理的に表現することができる。	① 自分の意思で目標や見通しをもって課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとする。 ② 自分の生活及び地域との関わりを見直し、自分のよさを理解しようとするともに、他者の考えを受け入れ尊重しようとする。 ③ 探究的な活動を通して、進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組むとともに、積極的に地域の活動に参加しようとする。

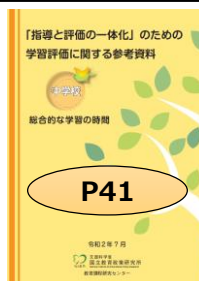


(1) 「内容のまとめり」をもとに、単元全体を見通して、単元の目標を作成する。

①地域の仕事や、その仕事に取り組む人々に関する探究的な学習を通して、②働くことの意味と自分自身の生き方との関わりに気づき、③働くことの意味を自分との関わりで考えとともに、④今後の学習や生活の在り方に積極的に生かすことができるようにする。

この例では、4つの要素を構造的に配列して作成しています。

- ①探究課題を踏まえた単元において 中心となる学習対象や学習活動
- ②単元において重視する「知識及び技能」
- ③単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」
- ④単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」



2. 単元の評価規準を作成する

(2) 「内容のまとめりごとの評価規準」をもとに、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

単元の評価規準を作成する際には、単元で行う学習活動やどのような資質・能力を重視するかによって具体的に記述することが求められます。その際、観点ごとのポイントを参考にして作成することが考えられます。観点ごとのポイントは、参考資料のP43～P45に掲載されていますので参照してください。

【単元の評価規準】(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①働くことの意味について、収入を得るため以外にも、自分自身や他人のためになっていること、地域社会のためになっていること、それらは自己の成長とともに見いだすことができることに気付いている。 ②収集した情報を手際よく分類し、分かりやすい方法で表している。 ③働くことの意味を考える学習が、将来の職業選択のみならず、今後の自分自身の生き方に深く関わっていることを理解している。	①働くことの意味について、自分たちの考えと実際に働いている人々との考えの隔たりから、自分自身で課題を設定し、見通しをもっている。 ②他者に自分の考えが伝わるように、目的に合わせて情報を分類したり、効果を意識して表現方法を組み合わせたりしている。 ③相手や目的に応じて自分自身の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	①課題解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、自身の活動を振り返りながら次時の活動に生かそうとしている。 ②仕事と自分との関わりに関心をもち、今後の学習や生活の在り方を積極的に考えようとしている。

本単元の評価規準は、A中学校の全体計画に示した「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」のうち、「思考力、判断力、表現力」の①③④、「学びに向かう力、人間性等」の①③を踏まえて作成しています。

3. 指導と評価の計画を作成する

「単元の評価規準」の指導計画への位置付けについては、総合的な評価を行うためにも、生徒の姿となって表れやすい場面、全ての生徒を見取りやすい場面を選定することが大切です。



【指導と評価の計画（全45時間）】の例

小単元名	ねらい・学習活動	知	思	態	備考 (評価方法)
1 働くことの意味を考えよう。 (15)	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考えた働くことの意味と、実際に働いている人が考える働くことの意味には違いがあることに気付く。 地域にある職業を知り、職場体験学習をする事業所を決定し、事業種ごとに働くことの意味を探る計画を立てる。 		①		・ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> 事業所にインタビュー(兼事前訪問)をしたり、保護者や地域へのアンケートを実施したりして、情報を集める。 調査活動によって得た情報をもとに、働くことの意味について考える。 	①			・ウェビングマップ ・ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> インタビューやアンケートで得られた情報を伝えたいことに即して分類したり、表現したりする。 整理した情報をまとめ、学級全体で共有する。 	②	②		・レポート ・振り返りシート
	<ul style="list-style-type: none"> 全体共有で感じた疑問点をグループで共有し、今後の活動の見通しをもつ。 			①	・振り返りシート
2 実際に働き、自己の生き方を考えよう。 (30)	<ul style="list-style-type: none"> 疑問点をまとめ、課題として設定するとともに、職場体験学習の計画を立てる。 実際に職場体験学習を行い、事業所の方に新たな疑問についてインタビューをしたり、体験から得た感覚的な情報を自己の変化に着目して職場体験ハンドブックにまとめたりする。 		③		・職場体験ハンドブック ・発言 ・分析シート
	<ul style="list-style-type: none"> インタビュー活動で得た新たな情報や職場体験を通して記録したことを整理・分析し、仕事をする理由と自己の成長の関係を知る。 将来の職業をイメージし、今後どのような社会人になりたいか、これからどのように生きたいかの提言をレポートにまとめ、発表する。また、発表内容を事業所に感謝の手紙とともに送り、事業所の方からコメントをもらう。 	③		②	・提言レポート ・礼状

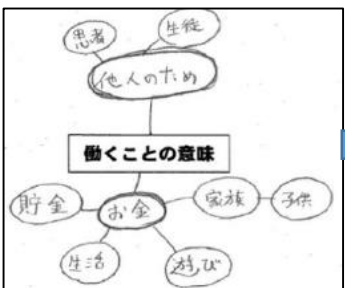
4. 単元の指導計画（指導と評価の計画）をもとに、本時の評価規準を具体的にする

「人はなぜ働くのだろう」という課題を設定した生徒は、保護者や職場体験訪問事業所に対して「働くことの意味」についてのアンケートを実施しました。活動から得られた情報を整理・分析する場面で、ウェビングマップとワークシートに記述したものを「知識・技能①」の評価資料としています。

評価規準「知識・技能①」

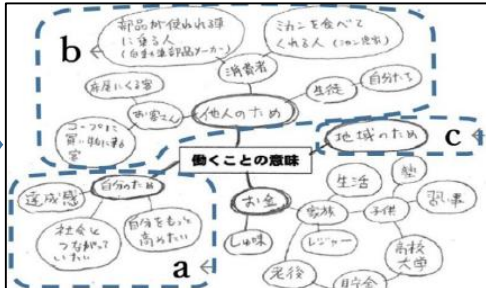
働くことの意味について、収入を得るため以外にも、自分自身や他人のためになっていること、地域社会のためになっていること、それらは自己の成長とともに見だすことができることに気付いている。

【図1】単元導入時の生徒A



働く理由は、お金をもらうためだと思います。お金がないと、生活していきません。家族を養うのもお金が必要です。あと、学校の先生は生徒のために、病院の医者は患者のために働いているとも言えるので、他人のためでもあると思います。

【図2】整理・分析時の生徒A



インタビューやアンケートから、働く理由は「お金のため」「他人のため」「自分のため」①「地域のため」の4つであることが分かりました。②一番意外だったのが、「自分のため」という意見です。今度職場体験で行く事業所の方も、「自分の技術をさらに高めたい」と話していました。また、「他人のため」とは学校の先生とかしか考えていませんでしたが、ミカン農家の方が「このミカンを食べしてくれる人のため」と言っていて、直接会わない人も含まれるんだと思いました。

【図2 a】を見てください。着目した。アンケートから得られた「達成感」という意見や、「社会とつながりたい」という意見が「自分のため」に繋がっています。このことから、生徒Aは「達成感」や「社会とつながりたい」という意見のどちらも「自分のため」とあるという考えに至ったと解釈することができます。

下線②には「意外だった」と書かれています。この記述から、働くことの意味について新たな視点に気付くとともに、働くことの意味が拡張されたことを生徒A自身が自覚しているものと解釈することができます。

期待する生徒の姿に迫るための学習活動を設定するとともに、生徒の発言や振り返りなどから、学習状況を把握することが大切です。

